

新春

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより

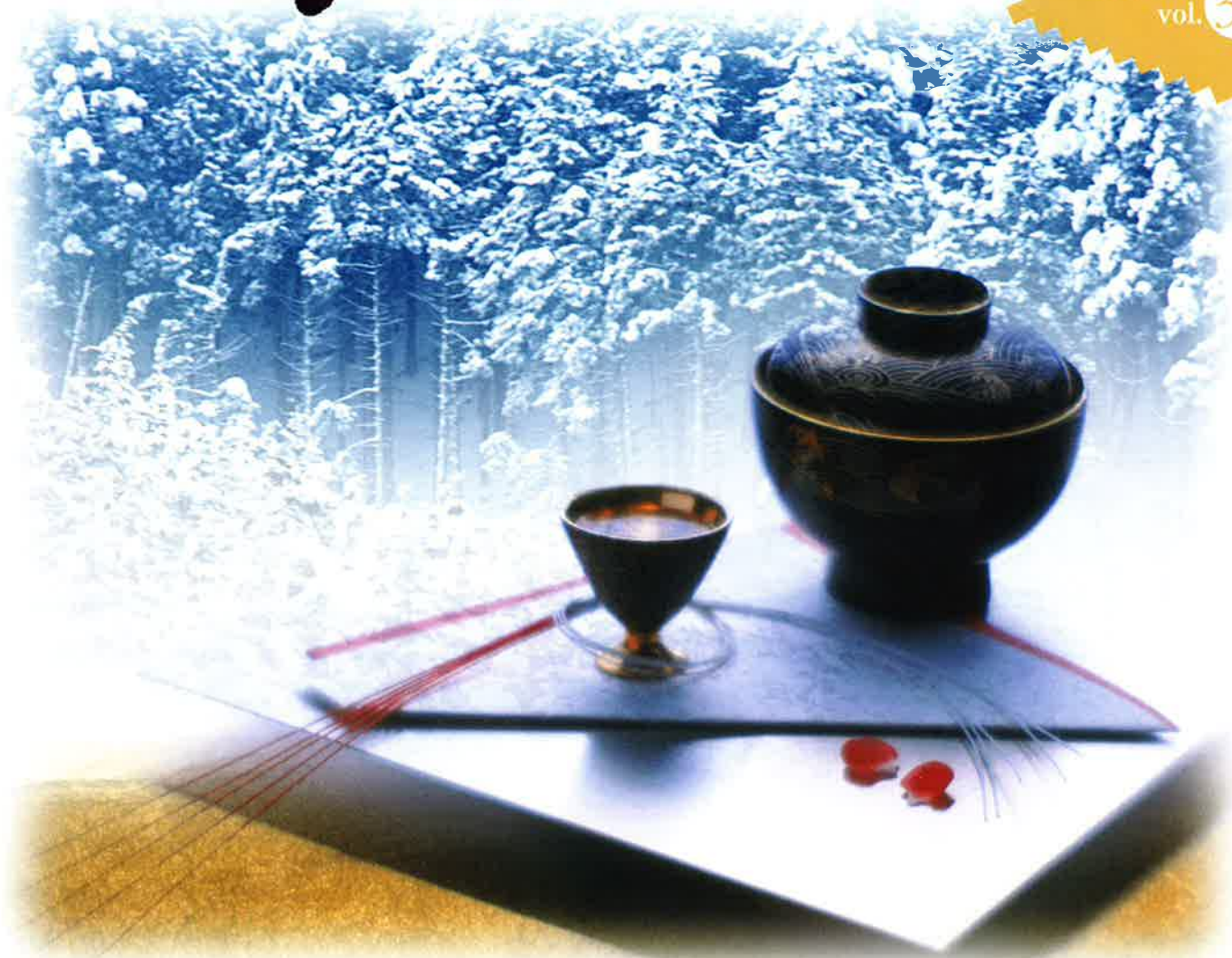


人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

新春号

2010年1月発行

vol. 39



明けましておめでとうございます。温暖化対策のため、年末には世界の首脳がCOPと言う、聞き慣れない会議に集合しておりましたが、皮肉にも欧米には寒波が襲来、我が国も平年よりは雪の便りが早かったようです。昨年の漢字は「新」と言うことでした。我々も秋以降は新型インフルエンザの猛威とワクチン対策に振り回されると共に、もうひとつ医療保健行政の方針が定まらない新政権に若干の不安を感じながら年明けを迎えました。世界的な経済不況が継続し、予想以上の税収落ち込みの中、4月の診療報酬の改訂の方向も明確にはなっておりませんが、少なくとも平成14年から続いていた、社会保障・福祉関連費用の削減を国家財政立て直しの中心に添えるという誤った政策に歯止めがかかるのではと

期待しています。

本院にとって今年は、約50%の残存している昭和56年の建築基準に合致していない建物の全面改築に取りかかるスタートの年になります。大災害時には京都府の拠点となるべき基幹災害医療センターに相応しい耐震性を具備した病院に建て替えるための予備工事が6月頃には始まります。駐車場の問題等で皆様方にはご迷惑をおかけすると思いますが、全面改築が全職員の願いであります。ご理解いただくと共に、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 院長 依田 建吾

京都第一赤十字病院

麻 酔 科

救急医療のニーズに十分に応えられる 体制の構築をめざして

麻酔科・緩和医療部部長、中央手術室室長 佐和 貞治

今回、京都第一赤十字病院麻酔科についてご紹介させていただきます。平成18年1月に現在当院の院長である前麻酔科部長依田建吾先生より麻酔科部長職を引き継ぎ、今日までに早3年あまりの歳月が経ちました。私事ですが、私は「京都第一赤十字病院生まれ」で四十数年を経たのちに自分の生まれた病院で勤務しておりますことに感慨深い特別な思いを持っております。昭和60年京都府立医科大学卒業後、大学麻酔科に入局いたしました。その当時、依田院長はドイツ

留学から帰国されました直後で、大学医局では医局長を務めておられ、麻酔科研修医師でありました私どもに当時最先端であったドイツ心臓麻酔法について直接ご教授頂きました。その後、私は、京都府立医科大学での9年間の医局勤務ののち、平成6年より平成17年までの10年あまりの間、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の麻酔科に所属し、スタッフとして集中治療医学分野の基礎・臨床研究に従事して参りました。平成17年に帰国し京都第一赤十字病院麻酔科で麻酔業務に従事させていただく機会を頂き現在に至っております。

私が渡米しておりました間に日本の医療情勢は大きく変わり、全国の麻酔科もその荒波の真ただ中に流浪するかのよう研修制度の変革、医師不足と労務環境の悪化に大きく巻き込まれ、大学麻酔科といえども崩壊の危機に堕ちいるような厳しい情勢にありました。そんな状況の中で、依田先生が20年あまり守ってこられました麻酔科を引き継ぎ、身の引き締まる思いと危機感を感じて運営に携わって参りました。米国方式の合